

調査・研修等計画届出書

令和 5 年 9 月 2 8 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 西本 潤 

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 5 年 1 0 月 1 1 日から 1 0 月 1 3 日まで（2 泊 3 日）	
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察	
会場名（会場所在地）	岩手県洋野村視察・岩手県田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて	
議長名の依頼	要 ・ ☐ 不要	依頼先（名称）
同行者名	富田 宗一・小澤 勝・三木 雪実・宮薮 伸二・高島 淳 ・朝井 賢次・山内 精一郎・颯田 季央・黒柳 知世	

※行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 5 年 11 月 2 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 西本 潤

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 5 年 10 月 11 日から 10 月 13 日まで（2泊3日）
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察
会場名（会場所在地）	岩手県洋野町視察・岩手県野田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
岩手県洋野町 東日本大震災において最大で 13 メートルの津波に襲われたが、犠牲者は一人も出なかった。その理由として 90 年前に起きた「昭和三陸津波」およそ 80 人が犠牲になり、住民たちはその記憶を代々に伝えた。伝承の場となったのが毎年行ってきた慰霊祭だ。集まった子供たちに小さいうちから過去の津波の被害について伝えるとともに、日々の生活の中で津波災害の教訓が受け継がれ、「津波が来るからすぐ逃げろ」ということが擦りこまれていたため震災当日、子どもたちは誰に言われなくても自ら避難していた。	
岩手県野田村 野田村復興展示室 被災から復興までの様子が、映像やパネルで紹介されている。また、心の復興支	

援活動の一環でもあった村中心部のジオラマ模型は、住民それぞれの思い出の野田村が描かれていた。その他、野田村の震災・復興について1時間ほどで案内する「震災ガイド」が実施されている。館内は震災の記憶ゾーン・営みと生業ゾーン・復興と防災ゾーン・語り集うゾーンなどが設けられ、地区ごとの被災状況や捜索活動の様子を写真での紹介や、災害に強いまちを目指した防災・避難の考え方や、主な復興事業がパネルで紹介されていた。

青森県八戸市美術館

八戸市において、活発に展開される市民の文化芸術の拠点と、「アートのみちづくり」の中核施設として新美術館が整備された。新美術館は旧美術館の敷地や隣接する私有地のほか、青森銀行八戸支店及び交番の敷地を合わせた区域内で、周辺との一体的な景観形成が図られている。新美術館は、展示・調査研究・収集保存という美術館が担う基本的な役割に、人々が互いに刺激し合いながら感性を高め、育まれていく“共育”を担う「アートの学び」と、観光や福祉、地域コミュニティなど様々な分野を横断した総合的な文化政策を担う「アートのまちづくり」を加えた3つの役割を融合させた美術館であった。

青森県おいらせ町

東日本大震災では、震度5強という強い揺れを観測するとともに、その後発生した大津波は推定8mの高さで襲い掛かり町民生活・経済基盤に大きなダメージを与え、沿岸部を中心に大きな爪痕を残した。以上のような被害により、おいらせ町は平成23年8月17日特定被災地方公共団体に指定され、復興のために実施する必要がある事業については復興交付金により対応できることになり、これに対応した「おいらせ町震災復興計画」を立案し、これを指針とした復興・再生を進めた。

主要事業

- ・河川堤防のかさ上げと機能改善
- ・海拔表示板の設置
- ・津波避難誘導標識整備
- ・海岸堤防の整備済み区間のかさ上げと延長
- ・防災行政無線移動系デジタル無線整備
- ・避難階段整備
- ・避難路整備
- ・津波監視カメラの整備
- ・明神山防災タワー整備

調査先（主な質疑・応答内容） ／ 研修（受講後の感想）

岩手県洋野町

犠牲者を出さないためには、地形や人口も影響するが、過去の災害に対する伝承のあり方が大きな要因の一つになったと考える。また、石碑などを残し追悼などの行事が続けることによって、親子や住民の間に「あの時はああだったね」という対話が生まれて地域の中に記憶が定着していくことが重要であると感じた。

主な質疑

Q. 東日本で死者、行方不明者がゼロだったが、どの様な点が功を奏したか。

A. 住民の津波避難の意識の高さ、過去の津波被害を教訓に「地震が来たら高台に逃げる」という心構えがあった。津波発生時の消防団の行動が徹底されていた。防潮堤の整備がされていた。などが挙げられる。

Q. 震災時において防災計画はどのくらい機能したか。

A. 「災害予防計画」「災害応急計画」「災害復旧・復興計画」など震災に関してはほとんどカバーできた。

Q. 復興についての大きな課題

A. 仁月被害の有無により課題は変わってくるが、初期段階では、人的被害がない場合は瓦礫の処理は重機などで行えるが、人的被害がある場合は、瓦礫の処理には時間がかかる。次の段階では、震災復興計画の策定になる。住民の意見の集約など、議論や調整に時間がかかる。

Q. 避難訓練実施にあたり、工夫している点や課題は。

A. 沿岸部の地区では、津波避難訓練を、山間部の地区では、土砂災害避難訓練を行い、徒歩による避難所までの経路などを再認識している。課題については、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波の浸水想定が過去の浸水域をおわ回る想定となったことから新たな避難目標地点や避難経路の設定が必要となった。

岩手県野田村

資料館を見学したことにより、東日本大震災大津波による被災状況や教訓、復興の足跡を見ることができた。また、小田村長から自らが被災者としての生々しい体験をお聞かせいただくことができ、当時の様子を想像することができた。

主な質疑

Q. 甚大な津波の被害にあった同じ場所に再び家を建設している方がおられるが、なぜ高台に移転しなかったのか。

A. 長年住み慣れた場所に再び住みたいという思いが強く、再び津波がきたら逃げればよいという覚悟でいる。

青森県八戸市美術館

本美術館で印象に残ったのが、施設の中央にジャイアントルームが設けられ、エントランス役割のみならず、人々が自由に集い、学び、活動する場としての役割も担う巨大な空間で、入館料は無料で、Wi-Fi、電源も使え、飲食も持ち込みが可能で、誰でも自由に使えるフリースペースとして、各種イベントや、コンサートなども行われている。これまでの美術館のイメージが「みる」美術館であったのに対し「つかう」美術館であり、新しい視点での美術館であった。本市においても今後、新たな施設が設置される際には、こういった多目的に「つかえる」施設の設置を考えるべきであると感じた。

青森県おいらせ町

東日本大震災経験を教訓に「おいらせ町震災復興計画」則り、東日本大震災以上の被害が想定されている日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震発生時の被害想定で、整備が行われていた。特に、津波監視カメラは照明が全くない深夜においても海面の変化、河口の状況を広範囲にわたり監視することができるようになり、危険が迫る中、現場に行つての監視の必要がなくなった。また、町内各所に避難階段、避難スロープが設置され、いざという時に素早く津波の被害から逃れられるような施設が設置されていた。明神山防災タワーは浸水区域内に位置し、大津波避難場所までの避難が困難な方々のための緊急避難施設となっており、避難階の床面の高さが9.8mで、23mの津波にも対応できる施設で、高台に位置する場所に更にタワーの設置は想定される津波の巨大さが想像できる施設となっている。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

今回の視察を通して、改めて東日本大震災の被害の大きさを実感した。各地域でお聞きした意見として、発災直後は、自助・共助・公助のうち自助は勿論のことであるが、やはり地域住民の声の掛け合い、助け合いである共助が最も大切であるとの地域でも共通の意見としてお聞きしました。実際に大津波が押し寄せてくる中、住民同士の声の掛け合いで迅速に避難でき多くの命が救われた。また被害にあった方も、地域の住民の協力より多くの方の救助ができたなど、この背景には度々繰り返される大津波に対して地域ぐるみで対応し、その経験を代々語り、受け継いできたことが被害をできる限り少なくすることができ、避難所の開設、避難物資の配給などが円滑に行うことができた。また今後来るであろう災害に対しての備えや、心構えを学ぶことができた。本市においては津波の被害は想定されていないが、災害が起こった時の対応や、行動など多くのことを学ぶことができ、今後の防災計画の参考となった。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5	名古屋飛行場	飛行機	片道	青森空港	693	km	37,300	円	円
年 10 月 11						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
青森空港から八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

50,300 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5						km		円	円
年 10 月 12						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

小計 13,000 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5	青森空港	飛行機	片道	名古屋飛行場	693	km	37,300	円	円
年 10 月 13						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									
八戸市内から青森空港の移動の際はレンタカーを使用する。									

パック等による割引など

小計 37,300 円

22,250 円

宿泊費 合計

交通費 合計

26,000 円

74,600 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)
78,350 円